



乾癬でスキリーズ®を 使用される方へ

監修：東京慈恵会医科大学 皮膚科学講座 主任教授
朝比奈 昭彦 先生



abbvie

あなたは今、 どんなことがしたいですか？

乾癬治療には、塗り薬や紫外線を用いた治療や飲み薬がありますが、生物学的製剤といわれるお薬も用いられるようになってきた結果、現在の乾癬治療のゴールは、症状の改善だけにとどまらず、乾癬の症状や治療によって制限されない生活を取り戻すことである、との考え方に変わりつつあります。

この冊子では、スキリージ®の特徴や使い方、

注意することや副作用などに関して解説しています。

スキリージ®による治療についてよく理解していただき、

乾癬と上手につき合っていけるよう、担当医と一緒に、治療を始めていきましょう。

目次

乾癬とは	4	治療中に注意すべきこと	10
スキリージ®とは	5	起こりやすい主な副作用	11
治療を受けることができる方	6	特に注意が必要な副作用	12
治療に際しての問診と検査	7	毎日の生活のなかで気をつけてほしいこと	13
治療方法	8	治療中に利用できる医療費助成制度や自己負担限度額について	14
効果について	9	Q&A	15

スキリージ®の効能又は効果、効能又は効果に関連する注意(抜粋)

■効能又は効果

既存治療で効果不十分な下記疾患

尋常性乾癬、乾癬性関節炎、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症

■効能又は効果に関連する注意

以下のいずれかを満たす尋常性乾癬、乾癬性関節炎、膿疱性乾癬又は乾癬性紅皮症患者に投与すること。

- 光線療法を含む既存の全身療法(生物製剤を除く)で十分な効果が得られず、皮疹が体表面積の10%以上に及ぶ患者
- 難治性の皮疹、関節症状又は膿疱を有する患者

半袖を着たい



おしゃれな服を着たい



思いっきり
スポーツしたい



温泉に入りたい



乾癬とは

乾癬とは、慢性的に炎症が起こる皮膚の病気です。特徴的な症状には、皮膚が炎症を起こして赤くなる紅斑、皮膚が盛り上がる浸潤、その表面が白くなる鱗屑、それがフケのように剥がれ落ちる落屑があり、関節が痛くなったり腫れたりする場合があります。また、爪に症状が出ることもあります。免疫が過剰に働くことが原因であるとされており、IL-23(インターロイキン-23)という物質が深く関係していると考えられています。

●主な乾癬の種類

1. 尋常性乾癬

尋常性とは「普通の」、「よくある」という意味で、乾癬全体の約90%を占めています。紅斑、鱗屑などが多くみられ、乾癬と診断された方の約半数にかゆみがあります。

2. 乾癬性関節炎

皮膚症状に加え、関節の腫れ・痛みがあります。爪が変形することもあります。進行し関節が変形すると日常生活に支障があらわれるので、その前に適切な治療を受けることが重要です。

3. 膿疱性乾癬

膿疱とは、膿をもった小さなブツブツがあらわれることです。全身に膿疱が発生し、急激な発熱や倦怠感を伴う場合は入院治療が必要で、国の難病対策として「指定難病」※に挙げられています。

4. 乾癬性紅皮症

紅斑が全身に広がって、鱗屑が多くみられます。発熱を伴うことが多く、入院治療が望ましい、重症の状態です。



※2015年1月1日施行(2025年8月現在)

スキリージ®とは

乾癬は、免疫作用として外敵から体を守ってくれるはずのサイトカインという物質が過剰に働くことで起こります。サイトカインにより、リンパ球が炎症を引き起こすさまざまな物質を生み出し、皮膚や関節で乾癬症状があらわれます。

乾癬が起こる仕組み

(イメージ図)

サイトカイン

IL-23

リンパ球

炎症を
引き起こす物質

乾癬の
発症

特に、IL-23というサイトカインが乾癬に深くかかわっており、中心的な役割を果たしていることが最近の研究でわかっています。

スキリージ®は、このIL-23の働きを抑えるためのお薬で、生物学的製剤(p.15)と呼ばれています。もともと体内で免疫作用をつかさどる抗体の働きを利用した医薬品です。

スキリージ®による治療を受けた場合

(イメージ図)

スキリージ®

IL-23

リンパ球

乾癬症状
の改善

IL-23の働きを抑えることで、炎症を引き起こすさまざまな物質を生み出さないようにします。

治療を受けることができる方

スキリージ®による治療を受けられるのは、尋常性乾癬、乾癬性関節炎、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症と診断された方のうち、下記のいずれかに該当する方です。

1. これまでの治療(塗り薬や紫外線を用いた治療や飲み薬)では、十分な効果が得られず、皮膚の症状が全身の10%(手のひら約10個分)以上にある方
2. 治りにくい皮膚の症状、関節の症状や膿疱(p.4)がみられる方



● 下記の方は、治療を受けることができません。

- 重い感染症にかかっている方
- 治療が必要な結核にかかっている方
- 過去にスキリージ®に含まれる成分でアレルギー反応を起こしたことがある方

● 下記の方は、治療を受けるにあたり注意が必要な方です。

- 感染症にかかっている方またはかかっている可能性がある方
- 過去に結核にかかったことがある方
- ご高齢の方

治療に際しての問診と検査

スキリージ®による治療を受ける前に、問診と検査を行います。

問診

治療前に、合併症、過去の病歴、治療歴などを確認します。他に服用している飲み薬がある場合や、妊娠・授乳を希望する場合は担当医にご相談ください。



検査

治療前や治療中に、担当医の判断により定期的に結核検査を含む血液検査、尿検査、画像検査(胸部X線、胸部CT)などを行います。

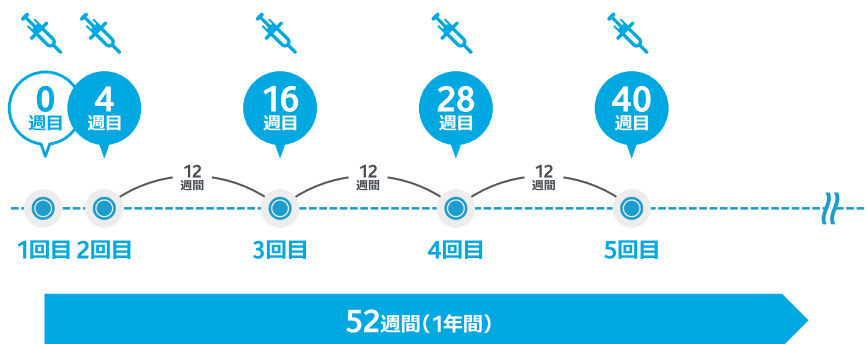


治療方法

スキリージ®は、医療機関で担当医または看護師に皮下に注射してもらうお薬です。

注射のタイミング

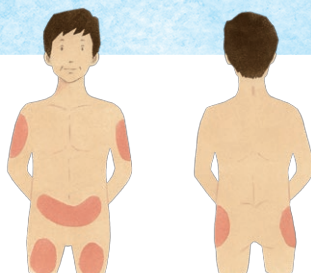
1回目と2回目の間は4週間(約1ヵ月)あけ、その後は、12週(約3ヵ月)ごとに注射します。症状や体調の変化については、別冊の『スキリージ®を使用される患者さんへ Weekly 体調管理ノート』に記入いただき、受診時にお持ちください。



※治療を受ける方によって1回の注射の本数(2本または1本)は異なります。

注射をする部位

おなか、太もも、二の腕の外側、おしりのいずれかに注射します。

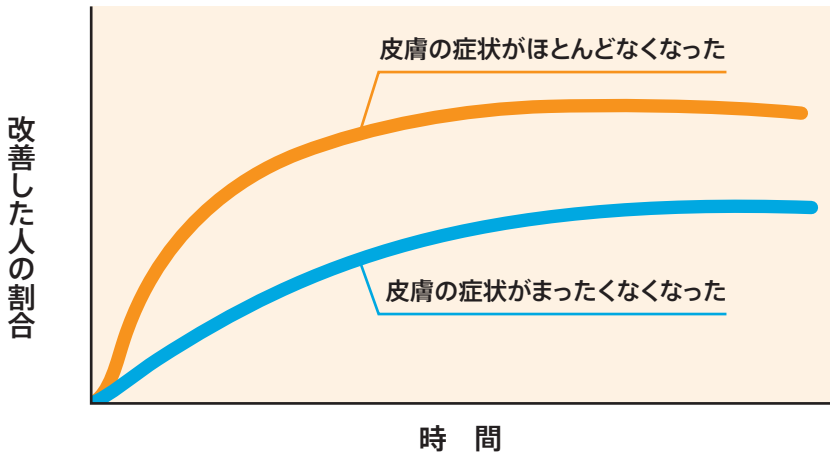




効果について

スキリーズ®の効果は人それぞれですが、通常、治療を開始して、16週以内には、効果があらわれます。効果の判断は、紅斑、浸潤や鱗屑 (p.4) の状態などを観察して、総合的に担当医が行います。

皮膚症状の改善(イメージ図)



治療中に注意すべきこと

スキリージ®は、体内の免疫機能の一部を弱める作用があるため、ウイルスや細菌などの病原体による感染症が起りやすくなる可能性があります。

治療中は、以下のことに注意してください。

●注射した当日

- 注射した部位を刺激しないように注意しましょう。
- 入浴は可能ですが、注射した部位をゴシゴシこすったりするのは避けましょう。

●日常生活

- 日頃から、うがいや手洗いを
する習慣をつけましょう。



●ワクチンの予防接種

- インフルエンザの予防のため、流行する前にインフルエンザワクチンの予防接種をすることが望ましいです。予防接種については、担当医にご相談ください。
- BCG、麻疹、風疹、おたふくかぜ、みずぼうそうなどの生ワクチンなまによる予防接種は避けましょう。その他、ワクチンの予防接種が必要なときには、担当医にご相談ください。

●他の病気について

- 他の医療機関を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずスキリージ®を使用していることをお伝えください。

●妊娠・授乳について

- 妊娠・授乳を希望される方は、担当医にご相談ください。



起こりやすい主な副作用

必ず起こるわけではありませんが、スキリージ®を注射すると副作用が起こる可能性があります。普段から以下の症状に気をつけて、気になることがあったり、体調がおかしいなと思ったら、すぐに担当医にご相談ください。

かぜなどの感冒様症状

主な症状



鼻水、くしゃみ、鼻づまり



喉の痛み、頭痛



寒気、熱があるなど

注射部位反応

主な症状

注射した部位が
赤くなる、痛みがある



特に注意が必要な副作用

特に注意が必要な副作用は下記の通りです。

少しでも体調がおかしいと思ったら、すぐに担当医にご相談ください。

重い感染症

まれに細菌が血液中に入る敗血症などの重い感染症にかかる場合があります。

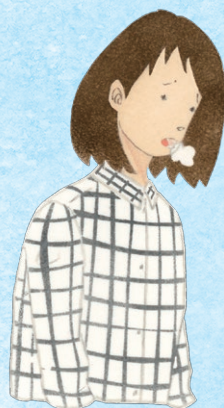
主な症状



熱がある



咳がでる、息が苦しい



体がだるい

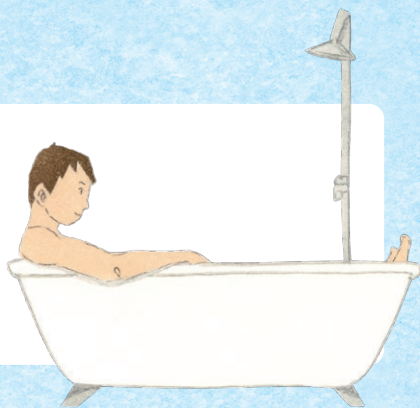
毎日の生活のなかで気をつけてほしいこと

乾癬の症状を悪化させないためには、適切な治療だけではなく普段から症状の悪化の原因をできるだけ避け、健康的な生活習慣を心がけることが大切です。

●皮膚の管理

毎日お風呂に入り皮膚を清潔に保ちましょう。ただしゴシゴシ洗ったり熱い湯ぶねにつかるなど、皮膚に過度の刺激を与えることは避けましょう。

体を強くしめつけるような、皮膚を刺激しやすい服は避けましょう。



●バランスのとれた食事

脂っこいものや糖質の摂りすぎに注意し、栄養バランスを考えた食事を心がけましょう。



●ストレス発散

ストレスをできるだけためこまないように自分なりのストレス発散法を見つけ、リラックスできる時間をとりましょう。睡眠不足や疲労の蓄積も大敵です。

●感染症対策

かぜなどの感染症にかからないように、日頃からうがいと手洗いを心がけ、体調管理に気をつけましょう。



治療中に利用できる医療費助成制度や自己負担限度額について

高額療養費制度について

診察や治療に必要な医療費が高額な場合に自己負担額を軽減させることができ、生物学的製剤を用いた治療に欠かせないものです。ご自身の加入している健康保険によって、制度の利用方法や問い合わせ先は異なりますので、保険証（被保険者証）で確認しておきましょう。



右の二次元コードより高額療養費制度を利用した際の治療費シミュレーションを確認してみましょう。



各所得区分におけるスキリージ® 自己負担限度額の例

※本事例は150mg製剤を使用した場合の計算になります。
 ※自己負担限度額は、患者さんの年齢や所得、検査等の診察内容によって異なります。
 ※投与開始のタイミングによって2年目以降は年4回の場合と年5回場合があります。

例.1 年齢問わず 所得区分「ウ」
 年収：約370～約770万円

1年目	1～3回目(使用月)	82,200円
	4～5回目(使用月)	44,400円
	1ヵ月換算	27,950円
以降2年目	1～4回目(使用月)	44,400円
	1ヵ月換算	14,800円

例.2 70歳以上 所得区分「一般」
 年収：約156～約370万円

1年目	1～5回目(使用月)	18,000円
	1ヵ月換算	7,500円
以降2年目	1～4回目(使用月)	18,000円
	1ヵ月換算	6,000円

付加給付制度について

一部の健康保険組合や共済組合では、高額療養費制度の自己負担上限額からさらに軽減される独自の自己負担上限額を設定しているところもあります。

例 自己負担上限額が25,000円の場合

1年目	1～5回目(使用月)	25,000円
	1ヵ月換算	10,417円

以降2年目	1～4回目(使用月)	25,000円
	1ヵ月換算	8,333円



Q & A

Q 生物学的製剤とは何ですか。

A バイオテクノロジーによって作られた比較的新しい医薬品です。化学的に合成されたものではなく、もともと生物が作りだしているタンパク質を応用して作られています。スキリージ®は、乾癬に深くかかわり中心的な役割を果たしているIL-23というサイトカインの働きを抑えることで、乾癬の症状を改善するように開発されました (p.5)。

Q スキリージ®による治療の費用はどのくらいかかりますか。

A 負担額は、ご使用される方によって異なります。詳しくは本冊子p.14の中面右にある「高額療養費制度を利用した際の治療費シミュレーション」の二次元バーコードからアクセスいただきご確認ください。

Q スキリージ®による治療はやめられますか。

A 自己判断で勝手に中止せず、必ず担当医にご相談ください。治療を中止するとそれまで抑えられていた乾癬の症状が再発する場合があります。中止を検討する場合は、担当医とメリットとデメリットについてよく話し合うことが大切です。

Q 副作用が心配なのですが、必ず起こるものでしょうか。

A どんなお薬にも副作用はあります。比較的好く起こるかぜなどの感冒様症状 (p.11) は、日頃からうがいと手洗いを心がけ、体調管理に気をつけることで予防することができます。特に注意が必要な副作用 (p.12) に関しても、少しでも体調がおかしいと思ったら、すぐに担当医に相談するように心がけることで、安全に治療をつづけることができます。

Q スキリージ®以外のお薬を飲んでいるのですが、大丈夫でしょうか。

A 治療を始める前に、担当医に必ず伝えてください。

ご使用される方へ向けたWebサイトのご紹介

乾癬およびスキリージ®による治療についてよりご理解いただけるよう、スキリージ®をご使用になる方とご家族に向けた情報を提供しております。ぜひ一度ご覧ください。



URL: [skyrizi.jp/ps/](https://www.skyrizi.jp/ps/)

医療機関名

製造販売元

アッヴィ合同会社

東京都港区芝浦3-1-21

〔文献請求先及び問い合わせ先〕

くすり相談室

フリーダイヤル 0120-587-874

2025年9月作成

JP-SKZD-190003-9.0

abbvie